

活動報告

団体名	フェニックス救援隊
活動名	西予市野村の軽トラ市と倉敷市真備復幸のための炊き出し支援活動
活動期間	2018年9月～2019年3月
活動の成果	<p>1. 活動をする前と後で対象者や地域にどんな変化があったのか</p> <p>発災後から時間の経過と共に様々な課題に直面していく被災者の皆さんの各々の事情は異なりますが、時に心が折れていく姿を見てきました。そういう中で、炊き出しを行うというのは、折れる心を立て直す機会でもあり、バラバラになっていく地域住民さんが集まる場でもあります。そして、厳しい顔が笑顔に変わっていくときでもあります。炊き出しを行うには、地域の方々のお気持ちを察しながら地域との調整が必要になります。実施が決まれば、地域の方々との打ち合わせやすり合わせ、またご協力を仰ぐことになります。事前準備、当日、後片付けという3段階において、地域との交流する形、それぞれの事情の中で参加形式、皆さんが元気になっていけます。</p> <p>2. 活動で得られた成果は何か</p> <p>3つあります。1つは地域住民との協働、2つ目は連携チームとの協働、3つ目は、当日の笑顔です。炊き出しという方法を通じて、地元や連携チームとのコミュニケーションが深まり、信頼関係が醸成されていきます。今回の場合、特筆すべき点は、愛媛県西予市野村で開催された軽トラ市でのことです。3月に実施した炊き出しでは、地元の中学生によるボランティア・チーム「野村ジオ・チャレンジ」が地元のために自分達も何かしたいと立ち上がったことです。これは連携チーム Open Japan が地元リーダーの1人（西予市教育課職員）と運営方法について相談した結果、中学生達が何かやりたがっている、任してみようか、となりました。大人は裏方サポートに回り、地元リーダー、連携チーム、当隊は三位一体となって中学生チームをサポートしました。その結果、中学生による調理とサービスの提供、またPRができ、彼らにとっては大きな自信につながったことと思います。事後の反省会から彼らの言葉から、社会貢献活動への芽生えが出てきたことを感じ取りました。</p> <p>3. 活動を始める前の目標と実際に活動を行なってみての結果や課題などについて</p> <p>秋刀魚による炊き出しは旬の秋に1か月かけて実施しようと計画していましたが、地元との調整に時間を要しました。相手の事情に鑑み、相手のペースに合わせよう、自然体でいこうと決めていましたので、ボランティアが炊き出しをするためのボランティア活動にならずに良かったと考えています。大切にしていることは、地域と歩調と合わせる、連携するチームと歩調を合わせる、みんなが笑顔になれるようにする、ですので、実現できたものと自己評価しています。赤い羽根共同募金様のご理解の下に、延長していただいたお蔭と感謝している次第です。ノウハウは蓄積されていくも、大規模災害が広域に同時多発する近年、全ての地域ではできないことが課題かと思えます。</p>

